

平成13年度収蔵作品(購入8点/受贈22点)

No.	作家名	作品名	制作年	寸法	素材
	【購入】				
1	イヴ・クライン	「火の絵画」	1961年	132×64cm	焦げた厚紙・板
2	高松次郎	「ネットの弛み」	1968～69年	220×220cm	綿紐
3	高松次郎	「布の弛み」	1968～69年	150×150cm	綿紐
4	工藤哲己	「遺伝染色体の中の散歩」	1979年	33.5×18.5×28cm	鳥籠、木、プラスチック、糸、その他
5	中西夏之	「鏡の兎一式」	1995～99年	①91×73cm ②180×130cm (2点)	鏡、鉄棒、カーボンインキ、ビニールコート紙、金属砂、ホールペアリング
6	中西夏之	「Magnetic Sleeping(鏡の兎と共に)」	1999年	33.8×24.8cm(3点組)	グアッシュ、砂鉄・紙
7	中西夏之	「大きな紫のためのノート '82VII18～'83 I 18」	1982～83年	26.5×36.7cm(25点組)	鉛筆、色鉛筆・紙
8	阿部幸洋	「トレド」	2001年	①162×112cm ②162×130cm ③162×112cm (3点組)	油彩・カンヴァス
	【受贈】				
1	中村一美	「立ち重なる叢林」	1982年	199×70cm	木炭・紙
2	中村一美	「葡萄園と桑による円環構造」	1982年	199×70cm	木炭・紙
3	中村一美	「無題」	1985年	37.4×46cm	グアッシュ、墨・紙
4	中村一美	「無題」	1985年	37.4×46cm	グアッシュ、墨・紙
5	中村一美	「ブラック・マルベリー-9」	1986年	23×24.6cm	油彩・綿布
6	中村一美	「道元」	1984年	260×170cm	油彩・カンヴァス
7	若松光一郎	「プラット・フォーム」	1938年	100×80cm	油彩・カンヴァス
8	若松光一郎	「武蔵野風景」	1941年	60.7×73cm	油彩・カンヴァス
9	若松光一郎	「逆光の自画像」	1946年	45×38cm	油彩・カンヴァス
10	若松光一郎	「人物(N像)」	1946年	91×72.5cm	油彩・カンヴァス
11	若松光一郎	「母と子」	1946年	72.7×53cm	油彩・カンヴァス
12	若松光一郎	「幼児(素直)」	1949年	22.9×32cm	油彩・板
13	若松光一郎	「秋景」	1948年	96.5×130cm	油彩・カンヴァス
14	若松光一郎	「石炭を運ぶ女たち」	1956年	144×117cm	油彩・カンヴァス
15	若松光一郎	「煙突掃除夫」	1958年	145×97cm	油彩・カンヴァス
16	若松光一郎	「風化A」	1962年	130×161.5cm	油彩・カンヴァス
17	若松光一郎	「Composition April」	1983年	194×130cm	カゼインカラー、墨、油彩、和紙・カンヴァス
18	若松光一郎	「Composition 83」	1983年	194×290cm	カゼインカラー、墨、油彩、和紙・カンヴァス
19	若松光一郎	「白い音楽」	1986年	200×170cm	カゼインカラー、墨、和紙・カンヴァス
20	若松光一郎	「大地の詩'89A」	1989年	212×171cm	カゼインカラー、墨、和紙・カンヴァス
21	若松光一郎	「浮遊するフェルマータ」	1994年	212×171cm	カゼインカラー、墨、和紙・カンヴァス
22	若松光一郎	「COSMO GIALLO '95.8.26」	1995年	227.3×181.8cm	カゼインカラー、墨、和紙・カンヴァス

◇イヴ・クライン:1928年フランスに生まれる。戦後美術に大きな影響を与え、当館のコレクションにおける最も重要な作家の一人。炎の痕跡をとらえる「火の絵画」は、自然の根本的な原理をとらえようとするクラインの思想を反映した作品である。1962年没。

◇高松次郎:1936年東京生まれ。前年度に引き続き、体系的な作品収蔵を図るため、高松の重要な60年代の初期作品を収蔵。

◇工藤哲己:1935年大阪生まれ。反芸術世代の一人として注目を集め、1962年に渡仏した後は、近代ヨーロッパのヒューマンリズムや様々な社会的タブーに挑んだ作品で高い評価を得た。1990年没。

◇中西夏之:1935年東京生まれ。60年代にハイレッドセンターの名のもとに芸術と日常とを入り組ませたイベントを展開するが、現在に至るまで一貫して絵画の問題について様々な作品を発表し、常に注目を集めている。当館でも体系的な作品の収蔵が図られている。

◇阿部幸洋:1951年いわき市生まれ。現在スペインに在住するものの定期的に日本及びいわきにおいて作品を発表。スペインの地方の村々をモチーフとし、強い日差しと乾いた風土性を醸し出す瀟洒な油彩画を発表。

◇中村一美:1956年千葉市生まれ。80年代に作家として出発し、絵画の豊かな創造の可能性に挑み続け、現在最もその活躍が期待される作家の一人。平成14年に当館で個展開催。

◇若松光一郎:1914年いわき市生まれ。いわきの美術界を代表する作家であり、1985年に当館において回顧展が開催されている。1995年没。